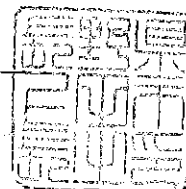


20管理第551号
平成20年10月27日

国土交通省道路局長 様

上田市長 母袋 創



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件について、別紙
のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長野県上田市

○道路整備について

1 直轄道路について

直轄道路は、地方都市の交通軸の骨格となると同時にまちづくりの基盤ともなる。したがって、部分開通のまま時間を費やすことなく、全線の早期開通を願いたい。(上田篠ノ井バイパス、上田バイパス 2 期工事)

2 地域高規格道路について

地域高規格道路は、長野県のように山岳県でありながら観光資源に恵まれた地域においては、観光立国、地域間交流に大きな効果をもたらすことから積極的な整備を望む。また、沿道の開発や郊外拡散の都市構造を助長しないことから、拠点集約型都市の形成、中心拠点への求心性といった観点からも好ましいものであると考えられる。(松本-佐久地域高規格道路、上信自動車道)

3 地方道路について

地方道路(3 析国道、県道)は、地方都市の生活に密着した道路であるため自動車の走行は言うまでもなく、子供・高齢の歩行者、中高校生の通学時の自転車等が混在し利用されている。しかし、各々の空間が確保されないため早急な整備が望まれる。

○財源等について

1 道路財源について

道路特定財源の一般財源化に当っては、地方に影響を及ぼさないよう、「地方枠」として道路財源の安定的確保とともに、市町村配分の引き上げ等の拡充を図っていただきたい。

2 まちづくり交付金について

「まちづくり交付金」については、設定区域内において各種事業メニューが適用できる補助制度として存続させるとともに、選択と集中の観点から特に重要な道路として位置づけられた路線については補助率の引き上げを強く要望したい。

3 「交通財源」の創設等について

地方鉄道や公共交通の重要性に鑑み、総合的な地域交通、都市交通施策を推進するため、道路特定財源を柔軟にした「交通財源」の創出、あるいは一般財源化した場合には地域の実情、要望に応じた適切な選択と集中により必要とする財源を確保されたい。

4 都市計画税について

都市計画法関連における都市計画税については、都市計画事業に対する目的税としていたが、補助事業の制度変遷の中で、純粋な都市計画事業が減少していること、また生活道路整備や環境保全も都市計画の目的であることを鑑みると、事業概念を広げることにより都市計画に資する事業全般へ適用範囲を拡大していく、あるいは、都市計画税そのものの用途を拡大していくことが必要であると考えられる。

5 橋梁の保守・点検等に係る財政支援について

橋梁の長寿命化修繕計画策定に伴う点検及び安全確保のための保守・点検に要する費用は累積すると多額となる。このことから「長寿命化修繕計画策定事業費補助制度」の支援期間の延長と定期的な点検を確実に実施し維持管理が行えるよう、点検に要する費用の補助対象化等の財政的支援を講じられたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

長野県上田市

○現状

【地域の概況】

上田市は、古くは信濃国府が置かれ、戦国時代には真田氏の城下町として発展するなど、経済、交通の要衝として長野県東部地域全体の中心的役割を果たしてきた。

人口は16万人を有し長野県下第3位であり、県内屈指の工業地帯であるとともに東信地域の商都でもある。また、水稲や果樹、高原野菜など農業生産も盛んであり、観光面では、数多くの歴史的文化的遺産や国指定の二つの高原、由緒ある温泉など豊富な観光資源を有し年間約400万人が訪れている。平成18年3月の合併に伴い市域が552k㎡に拡大し、隣接都市は県外を含め11市町村となった。

こうした中、中心市街地の空洞化や周辺の中山間地における遊休・荒廃農地の拡大、通過型観光による影響などが目立ちはじめ、中心都市としての魅力に影を落としている。

【交通体系の現状】

市内の道路網は、地域を東西に縦断する上信越自動車道、また国道18号を機軸として、国道7路線、主要地方道11路線、一般県道18路線を主軸に、これらを連結する市道で形成されている。

上信越自動車道が平成11年に新潟県上越市まで全線開通し、首都圏はもとより北陸・東北圏との産業や経済、文化面で交流が増大している。

公共交通機関では、平成9年に開通した長野新幹線と、しなの鉄道（全18駅中4駅）が東西に走り、上田駅をターミナルとして上田電鉄別所線（全15駅）が運行されている。

バス路線は、地域住民の身近な生活路線としての役割を果たしてきたが、生活様式や社会構造の変化、モータリゼーションの急激な進展等により利用者は著しく減少し、地域内の主要な交通手段は自動車を中心となっている。しかし、従前市内の一部地域で採用されていたデマンド方式に加え、本年10月、市内の主要施設を循環するバスシステムを再編し運行を開始するなど、新たな生活路線の整備に向けた取り組みを始めている。

○課題

上田市は、長野、松本、諏訪、佐久の4圏域を結節する都市として、地域の産業や自然環境等の特性を生かした「職・住・遊・学」機能の一体的強化に向け、群馬県をはじめ関東圏や中南信地域から関西圏への広がりを意識しつつ都市基盤の整備をすすめていく必要がある。

とりわけ道路網については、地域内外との経済交流、観光等による人的交流などを促し地域の活力創出につながることも、市民の生命と暮らしを守る最も重要な都市基盤であることから、次の課題を中心に整備充実を図っていく必要がある。

1 地域内連携の基盤

地域内の一体化を図り、市内各地域の特性や機能の連携を促進するため、地域の骨格となる道路網の重点的な整備促進が必要である。

市内の回遊性の確保とともに、中心地域と周辺地域を一体的に結ぶための環状道路や放射状道路などの道路網整備、郊外への円滑な交通と上田駅周辺の渋滞の解消を図るための都市環状道路内外の都市計画道路の整備促進を図る必要がある。

2 広域連携・交流の基盤

広域的な連携と交流を促進するため、地域高規格道路等の建設計画を推進するとともに、広域的な生活圏の核となる地域と地域を結ぶ広域交通ネットワークの充実に向け、安全で快適な交通サービスを目指し、国道バイパス、主要地方道などの基幹道路網の整備を促進する必要がある。

3 安全安心な道路環境基盤

生活道路のみならず骨格となる幹線道路の整備にあたっては、歩行者の安全で快適な通行空間の確保について同時に取組み、安全安心な道路環境の整備を進める必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

長野県上田市

○まちづくり基本理念 将来像【日本の真ん中 人が真ん中 生活快適都市】

「日本のまん中」 ・長野県東部の中心都市として、国内外・地域内外への発信。

「人がまん中」 ・市民が主人公であり、自らの地域を自らで良くしていくという自立精神を基調。

「生活快適都市」 ・住む人、訪れる人が豊かで快適な時間を過ごすことができる空間を表し、それを支える経済的な豊かさや文化的な背景、そして安全安心にすごせるさまざまな生活基盤。

○生活環境 <生活快適 住んでてよかった>

- ・上田市の中央には千曲川が流れており、その兩岸を結ぶ道路を中心とした朝夕の交通渋滞が問題となっている。また、電車やバスといった公共交通機関の利便性向上・利用促進により、市民の移動が安全・円滑に進むよう交通体系に関する課題の解決に向けた総合的な交通対策を早急に進める。

○軽快な交通網の形成

- ・市内外の交流が円滑に進む交通体系を実現するためには、近隣市町村とも協力しながら、上田市が属する上田地域広域連合で進められている「上田地域 30 分(サンマル)交通圏構想」の実現を目指し、渋滞緩和などに向けた広域道路網の整備を行う。また、暮らして密着した生活道路について、日常生活の利便性を高めるための整備を進める。
- ・歩行者等を交通の危険から守るために、バリアフリー化に配慮しながら、歩道その他の安全施設を整備するとともに、各種道路の整備に当っては、自然環境にも配慮した維持・改修に努める。

○市内外の交流の円滑化

- ①総合的な都市交通体系づくり・・・上田都市圏における交通の問題点と課題を検証し都市交通マスタープランを策定する。
- ②上田地域 30 分(サンマル)交通圏構想の実現・・・高速交通軸や地域間を結ぶ幹線道路へのアクセス道路の整備を積極的に進める。
- ③渋滞緩和などに向けた広域幹線道路網の整備・・・交通量の増加に対応し、渋滞解消や安全確保等を図るため、国道バイパス等の早期整備に向けた取り組みを積極的に行う。
- ④地域外との交流を促進する道路等の充実・・・広域的な交流を促進するため地域高規格道路の事業化に向けた取り組みを進める。
- ⑤日常生活の利便性を高めるための生活道路の整備・・・環状道路や公共施設等へのアクセス道路の整備を進める。また、生活基盤の向上を目指し、市民に身近な生活道路の整備を推進する。

○人や自然にやさしい交通体系の実現

- ①歩行者等の安全確保・・・幹線道路における歩道設置、事故多発路線や通学、通園路を重点とした交通安全施設の整備等を進める。
- ②自然環境に配慮した各種道路の維持修繕・・・公園緑地、史跡及び都市施設を結ぶ道路においては、周辺の優れた景観を取り込んだ道路づくりを進める。

【上田地域 30 分(サンマル)交通圏構想】

上田地域広域連合を構成する関係市町村の中心部から最寄のインターチェンジまでのおおむね 30 分での接続に加え、上田駅及び当該周辺主要公共施設等へも同等の時間内でアクセスするための総合的な交通体系構想

今後の道路行政についての意見・提案

③道路政策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

長野県上田市

○重点事項 1 地域活力の向上	○代表事例 1-① 国道 18 号上田バイパス 2 期工事、国道 18 号上田坂城バイパス、上塩尻交差点と下之条北交差点の立体化 1-② 鈴子バイパス（主要地方道別所丸子線）、（仮称）上田トンネル 1-③ 国道 254 号バイパス、国道 143 号改良及び青木峠トンネル、松本佐久地域高規格道路 1-④ 国道 144 号上野バイパス、上信自動車道	○期待する効果や評価等 1-① 現国道 18 号の渋滞緩和、長野・佐久方面への交流促進、通過交通の市街地排除 1-② 中心市街地と工業集積地のアクセス向上、塩田観光地へのアクセス向上、農業観光と融合した観光に寄与 1-③ 上田・松本間の交流促進、両観光の融合、新幹線上田駅の有効活用 1-④ 群馬方面との交流、観光融合促進、菅平観光活性化	○その他
2 都市交通の快適性、利便性の向上	2-① 上田電鉄別所線としなの鉄道の存続、利用促進 2-② 上田駅周辺の道路整備（まち交 城下町地区）	2-① 交通弱者の足の確保、過度の自動車依存からの脱却、地球環境への貢献、中心市街地の求心性の確保 2-② 交通拠点上田駅へのアクセス向上、拠点の求心力、都市的景観形成、歩行者自転車空間の確保。	
3 総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	3-① 通学路や交通量の多い幹線道路の歩道（自転車道）整備 （都）北天神町古吉町線（主：長野上田線（三好町）） （都）中常田新町線（主：小諸上田線（常入）） 市道 小島手塚線、黒坪長島線	3-① 交通弱者の交通安全、歩行者自転車空間の整備とモビリティマネジメントにも寄与する。 また街中への求心力、街中観光促進への寄与	
4 少子高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	4-① 上田駅周辺街路整備、放射道路（都）北天神町古吉町線（都）中常田新町線の街路整備	4-① 中心市街地の少子高齢社会に対応した市街地の安全快適性の向上	
5 良好な生活空間・自然環境の形成及び良好な景観の形成	5-① 街並み環境整備（柳町紺屋町線）	5-① 街中に残る景観資源の保全と活用。観光にも寄与	